

## しまね学校図書館活用コンクール 応募票

学 校 名	出雲市立今市小学校
学 校 長 名	岩成 英充 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">印</span>
記載責任者名	荒川 知凡
連絡先電話番号	(0853) 21-2544

( ) 読書活動	1 取組の概要					
	2 読書活動の資料・作品・写真等					
		活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無	
	1				有 ・ 無	
	2				有 ・ 無	
3				有 ・ 無		
4				有 ・ 無		
(○) 学校図書館 を活用した 授業実践	1 取組の概要					
	2 学校図書館活用教育年間計画 ※どちらかに○をつけてください。 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">有</span> ・ 無					
	3 学校図書館を活用した授業実践の資料					
		単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
	1	心に残った本を紹介しよう ～平和学習～	6年	国語	学習指導案 写真・ワークシート	2 2
2	中心となる人物の気持ちを考えよう ～サーカスのライオン～	3年	国語	学習指導案 写真 参考図書リスト	2 1 1	
3	様子や気持ちを表す音楽をつくろう ～走れメロス～	5年	音楽	学習指導案 写真	2 1	
4	なかよし・わかばまつりをしよう	特別支援	自立活動	学習指導案 写真・ワークシート	2 2	

## しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

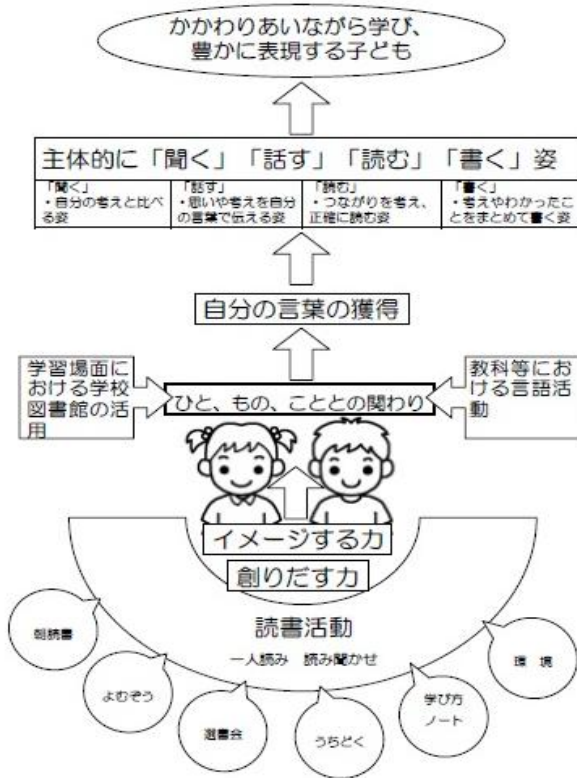
学校名 出雲市立今市小学校

- 1 応募部門
  - ( ) 読書活動部門
  - (○) 学校図書館を活用した授業部門
- 2 実践のねらい

学校図書館を活用した授業を計画的に行うことで、確かな情報活用能力を備え、豊かに表現する児童を育成すること。また、その中で司書教諭の効果的な関わりについて明らかにしていくこと。

- 3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

【図1】



### ① 学校組織としての取り組み

豊かに表現する児童の育成のために、図書館の役割を体系的に位置づけた。図1のように、読書センターとして、継続的な読書活動により、子どもたちの学びを根底から支え、また学習・情報センターとして各教科・領域の学習において計画的に活用し、学びを豊かにしていくものととらえた。

学校図書館活用教育年間計画（別紙）を作成し、年間を通して計画的な授業の実践に努めた。全学級で、様々な学習場面での学校図書館の活用を行った。それにより、より効果的に授業のねらいにせまり、豊かな表現を育てる支えとなるようにした。また、日常的に図書館を活用することによって図書館での本の探し方や情報の集め方を学び、主体的に情報を活用する力につなげたいと考えた。

また、図2のように、情報活用する学習を行う過程と、それぞれの過程でつきたい力を系統づけた。情報活用する学習を、課題の設定【つかむ】→情報・資料の収集【あつめる】→情報・資料の整理・分析【ふかめる】→発表・まとめ【まとめる】として組み立てた。

そして、学年に応じてそれぞれの過程でつきたい力と、そのための具体的な手立てを組み立てた。例えば、中学年の「情報の整理・分析」の過程では、「理解したことや考えを工夫してまとめること」を育てたい力としている。そのため、4年生の「くらし百科の時間です」では、暮らしの中に見られる工夫を、家の方へのインタビューだけでなく、図書館の本からも調べることで、昔から行われている工夫や別の地域にみられる工夫などを知り、発表の内容をふくらませることができた。そしてそれを劇にしたり、画用紙にまとめたりして調べたことを整理し、発表会をすることができた。学習過程を明確にし、全学年で共通化することによって、同じ学習過程を繰り返し、情報を活用する確かな力を身に付けることができるように考えた。

【図2】

	課題の設定 【つかむ】	情報・資料の収集 【あつめる】	情報・資料の整理・分析 【ふかめる】	発表・まとめ 【まとめる】
なかよし・わかば	・課題を知る。	・知りたいことを、本を使ってさがす。	・知る楽しさを体験し、自分の思いや考えを話したり書いたりする。	・本を通して、たくさんの言葉に触れる。
	具体的な手立てや取組 ・体験活動をする前に、資料を提示し、必要に応じて調べる。 ・図書館の使い方を調べる。			
低学年	・課題を知る。	・科学絵本や図鑑を活用し、課題について進んで調べる。	・知る楽しさを体験し、自分の思いや考えを書き、工夫してまとめる。	・思いや考えを表したり、伝えたりする言葉をたくさんもつ。
	具体的な手立てや取組 ・身近な自然や体験・飼育活動を通し、興味、関心、疑問をもたせる。 ・科学絵本や図鑑の使い方を調べる、自分の興味・関心を広げさせる。 ・教師が用意した資料の中から、目的に合わせた情報を取り出し、本から情報を得る楽しさを調べる。 ・調べたことを書いたり、話したりすることによって、情報交換、共有化を図る。			
中学年	・課題意識を膨らませる。	・学校図書館などの資料を活用して、課題を解決する。	・理解したことや考えを工夫してまとめる。	・考えを交流することによって、違ったものの見方、考え方に気付く。
	具体的な手立てや取組 ・身近な自然や体験・飼育活動を通し、興味、関心、疑問をもたせる。 ・NDC十進分類や百科事典、図鑑の活用の仕方など図書館資料の活用指導を進める。 ・調べたことを書いたり、話したりすることによって、情報交換、共有化を図る。			
高学年	・自分の学習テーマをもつ。	・多様な資料から目的（テーマや課題）に合ったキーワードやセンテンスを抜き出し、自分の生活や経験、既習学習と結びつけて考え、理解する。	・理解したことや考えを比較、理由付けながら分かりやすく書く。	・考えを交流することによって、違ったものの見方、考え方に気付く、自分の考え方に加味したり修正したりする。
	具体的な手立てや取組 ・図書館資料・電子メディアの活用指導を進める。 ・社会的現象に関心をもたせる工夫をする。 ・複数の資料を調べ、適切な情報を抜き出す。 ・調べたことを再構成して、目的に応じて発表の方法を考える。			

## ②司書教諭としての関わり

図書館を活用した授業における司書教諭の効果的な関わりとして、二つあると考えた。一つは、必要な時に専門的な知識や技能を生かして各教科・領域に積極的に関わり、児童や教員が豊かに授業のイメージを豊かに膨らませることができるようにすること、もう一つは、常時的に授業に必要な図書や資料を準備し、授業に便利な環境を作っておくことである。

授業への関わりについては、担任との相談時間を設け、図書館にある情報をより効果的に活用することができるようにした。例えば、6年生の平和について「心に残った本を紹介しよう」では、実際にブックトークをして見せ、自分たちがするブックトークについてイメージを膨らませた。担任と相談してどの児童がどんなことを伝えようとしているかを把握し、本選びや情報の整理のしかたの面で指

導できるようにした。また、気をつけることや様々な技法を教え、自分たちのブックトークに生かすことができるようにした。

子どもたちは必要などころに付箋をはって、自分が伝えたいことをはっきりさせたり、相手を意識して本を選び直したり、本と本のつながりを考えてブックトークを構成し直したりすることができた。

授業に必要な図書や資料の準備については、読書ヘルパーと協力して、今市小学校にどんな本があるか把握できるようにした。授業に便利な本で図書館にない本があれば、優先的に購入するようにした。情報を活用する学習では、子どもたちのニーズに合った十分な資料がそろっていることが不可欠であると考え、積極的に公立図書館との連携も図った。島根県立図書館や、出雲中央図書館と連携して、必要な資料を収集してもらったり、担任と相談し、直接図書館へ行って資料を探したりした。また、地域の学習など、図書資料だけでは不十分な単元では、パンフレットや新聞、インターネットの資料なども集め、地域ごと、カテゴリーごとに図書館にファイルした。また、情報の提示の仕方も工夫するよう心がけた。例えば、特別支援学級では、たくさんの情報の中から必要な情報を選び出すのは難しいため、情報を限定してほしいという担任の要望があった。子どもたちが興味をもっている遊びや、その授業のねらいにあった遊びを選んで、そのページを洗濯バサミでとめ、子どもたちに提示した。そして、新しい遊びにチャレンジしたり、自分が考えていた遊びに工夫を加えたり、さらに情報が必要な児童は、別の本を探したりすることができた。

## 4 実践の成果

- ・学校図書館活用教育年間指導計画を作成し、その過程や具体的手立てを示したことで、計画的に情報活用教育を行うことができるようにした。
- ・図書館を授業で積極的に活用することにより、図書館で主体的に調べて学ぶことが習慣化され、高い情報活用能力を育成する一助となった。
- ・図書館の活用することによって、より効果的に各教科・領域のねらいにせまり、子どもたちが表現したい内容をふくらませ、より豊かな表現をすることができるようになった。